

9 創造の諸問題 - フェミニスト神学 -9 - 1 創造と契約

## (1) 基礎的テキスト

&lt;創世記1~2章&gt;

1:1 初めに、神は天地を創造された。

1:2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

1:3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

1:4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、

1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

1:24 神は言われた。「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」そのようになった。25 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

&lt;創世記15章&gt;

15:5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

15:17 日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、……」

## (2) 創造論の意義

1. 定型句：「神はAあれと言われた。するとそのようになった。神はAを見て良しとされた」 創造の善性(有意味性)、創造(言葉・行為) 存在

2. 人間存在の意味：神の像(imago Dei) 特殊な使命(支配?)  
「ある」ということの意味、人間の価値は存在にあるのか行為・能力にあるのか  
老いの意味

3. 「無からの創造」へ

古代キリスト教思想のコンテクスト

悪の問題への解答 cf. 新プラトン主義、マニ教・グノーシス主義

## (3) 創造論の根拠としての契約

4. 「神 - 人間(共同体・民族 個人)」の関係 = 契約関係

人格関係における神(人格神) 人格的主体性・責任性

5. 契約の構造：「約束 - 信頼」 責任性・違反への罰則・人格的な関係  
我々はいかにして他人の言葉を信頼するのか？ cf. 日本の宗教性
6. 契約の起源・由来（創造論）と契約の結末・成就（終末論）
7. 契約 救済史：直線的歴史観、一回性、責任性 cf. 循環的歴史観

## 9 - 2 創造論批判 - フェミニズム -

8. 創造論は男性中心主義・理性中心主義か？  
フェミニズム神学の問題提起：父なる神？
9. 創世記の原初史物語における男女（アダムとエバ）  
手段としてではなく、パートナー（助ける者）として  
文明と男女関係の歪み（支配 - 被支配の構造）
10. イエスと女性：徹底的な平等主義、女性の弟子を伴った宗教活動（旅）
11. 「家の教会」から制度化された教会へ
12. 宗教におけるジェンダーの問題、「女性」の二面的位置
13. 制度レベルとイデオロギーレベルにおける男性中心性
14. キリスト教とフェミニスト神学  
イエスの宗教運動の理念と制度化されたキリスト教会の現実
15. 人間解放という視点、抑圧構造の再生産を越えて、いかにイメージするのか

<ルカ 8：1 - 3 >

1 すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。2 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、3 ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

<ガラテヤ 3章 >

3:28 そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。

<文献 >

1. 『総説 旧約聖書』（日本基督教団出版局） 2. 『現代聖書講座 1, 2, 3』（"）
2. 並木浩一 『旧約聖書における文化と人間』（教文館）
3. リューサー 『性差別と神の語りかけ』（新教出版社）
4. 大越愛子 『女性と宗教』（岩波書店） 『フェミニズム入門』（筑摩書房）
5. 大越愛子・源淳子・山下明子 『性差別する仏教』（法蔵館）
6. 小原克博 「新約聖書の性倫理」（『福音と世界』1998-10 新教出版社）
7. 関根清三編 『現代キリスト教倫理 2 性と結婚』（日本基督教団出版局）